

履修モデル

1. 医療薬学専攻（医療薬学コース）

(1) 履修科目取得の例

区分	授 業 科 目	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	備考
専 門 科 目 群	医療薬学特別講義Ⅰ	2				2	必修
	医療薬学特別講義Ⅱ		2			2	必修
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅰ	4				4	
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅱ		4			4	
	医療薬学特別研究	20				20	必修
	海外特別研修			2		2	
	計	6	6	2	20	34	

(2) 履修内容の説明

本学薬学部を修了した後、医療薬学専攻に進学した学生は、すでに医療薬学の基礎を十分に理解しているが、1年次に「医療薬学特別講義Ⅰ」及び「医療薬学特別講義Ⅱ」を履修して、医療薬学に関するより専門的な知識を修得することにより、以降の教育研究に必要な基盤的力量を得る。また、学生が所属する分野の教員が担当する演習科目「特別演習Ⅰ」及びは「特別演習Ⅱ」は当該領域の研究動向の把握法と自らの研究の位置づけに関する理解、実験研究の推進とデータ解析の方法や論文作成の方法に関する理解を主な達成目標として実施する。これらの演習科目は教員の研究成果に立脚した内容を基にして実施されるものであり、学生は演習を通じて実際の研究方法を修得する。一方、医療薬学特別研究においては、学生は全在学期間を通じて、研究課題に関する実験研究を推し進め、自らの研究データを科学的視野から客観的に批判して研究論文としてまとめる過程を通じて、自立した研究者・技術者としての能力を身につける。

2. 医療薬学専攻（腫瘍専門薬剤師養成コース）

(1) 履修科目取得の例

区分	授 業 科 目	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	備考
専 門 科 目 群	医療薬学特別講義Ⅰ	2				2	必修
	医療薬学特別講義Ⅱ		2			2	必修
	臨床腫瘍学特別講義Ⅰ	2				2	必修
	臨床腫瘍学特別講義Ⅱ	2				2	必修
	がん薬物療法学演習		4			4	必修
	がん化学療法薬学特別演習Ⅰ	4				4	
	がん化学療法薬学特別演習Ⅱ		4			4	
	がん専門薬剤師実習			5		5	必修
医療薬学課題研究DC	10				10	必修	
	計	10	10	5	10	35	

(2) 履修内容の説明

6年制薬学部を卒業し薬剤師国家試験に合格した後に医療薬学専攻に入学し、「腫瘍専門薬剤師養成コース」に在学する学生は、医療薬学に関する一定の知識を有していると考えられるが、1年次に「医療薬学特別講義Ⅰ」及び「医療薬学特別講義Ⅱ」を履修して、以降の教育研究に必要な医療薬学に関する基盤的な知識を修得する。同時に「臨床腫瘍学特別講義」を履修して、がん専門薬剤師として必要な専門的知識を修得する。2年次には、演習を2科目履修することにより、1年次に修得した知識を実際の臨床の場へ適用する方法論を修得する。また、学生が所属する分野の教員が担当する「がん化学療法薬学特別演習Ⅰ」及び「がん化学療法薬学特別演習Ⅱ」を1～2年次に履修する。3年次には、本学病院において実施される「がん専門薬剤師実習」を履修して臨床の場を体験する。これらと並行して、在学する全期間を通じて履修する「医療薬学課題研究DC」により、自らのテーマに沿った課題研究を行い、研究成果を学位論文としてまとめる能力を獲得する。

3. 医療薬学専攻（スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コース）

(1) 履修科目取得の例

区分	授 業 科 目	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	備考	
専 門 科 目 群	医療薬学特別講義Ⅰ	2				2	必修	
	医療薬学特別講義Ⅱ	2				2	必修	
	スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成セミナー	1				1	必修	
	ゲノム解析学演習	2				2	必修	
	メタボローム解析演習	2				2	必修	
	病態解析学演習		2			2	必修	
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅰ	4				4		
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅱ		4			4		
	ゲノム解析実習Ⅰ	2				2	必修	
	メタボローム解析実習Ⅰ	2				2	必修	
	ローテーション実習Ⅰ		2			2	必修	
	医療薬学課題研究DC		10				10	必修
	海外特別研修			2			2	
	計	17	8	2	10	37		

(2) 履修内容の説明

医療薬学専攻に入学し、「スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コース」に在学する学生は、医療薬学に関する一定の知識を有していると考えられるが、1年次に「医療薬学特別講義Ⅰ」及び「医療薬学特別講義Ⅱ」を履修して、以降の教育研究に必要な医療薬学に関する基盤的な知識を修得する。同時に「ゲノム解析学演習」「メタボローム解析演習」を履修して、高度な先進的薬学分析に関する必要な専門的知識を修得する。2年次には、「病態解析学演習」を履修することにより、1年次に修得した知識を実際の臨床の場へ適用する方法論を修得する。また、学生が所属する分野の教員が担当する「特別演習Ⅰ」及び「特別演習Ⅱ」は当該領域の研究動向の把握法と自らの研究の位置づけに関する理解、実験研究の推進とデータ解析の方法や論文作成の方法に関する理解を主な達成目標として実施する。これらと並行して、在学する全期間を通じ

て履修する「医療薬学課題研究DC」により、自らのテーマに沿った課題研究を行い、研究成果を学位論文としてまとめる能力を獲得する。